



新鮮な野菜を 今年も各家庭へ ～黒磯那須公設地方卸売市場 初競り～

1月5日、黒磯那須公設地方卸売市場において初競りが行われました。地元で採れた新鮮な野菜が集まる当市場。「ご祝儀価格をお願いします」と競り人の一声で初競りが始まると、買受人の威勢の良い掛け声が響き、会場は活気に包まれました。市内豊町で八百屋店を営む買受人は、「今年は野菜の出来もよく、いい値段。大型店にはないサービスで、地元の野菜を各家庭に届けて行きたい」と抱負を話してくれました。



“夢”を乗せて大空へ！ ～第35回 三島小 凧揚げ大会～

1月18日、三島体育センターグラウンドで、地域の伝統行事「三島小凧揚げ大会」が今年も開催され、約250人が参加しました。普段は寒くて嫌になる風ですが、この日だけは“恵みの風”に。子どもたちは手作りの凧を器用に操り、風に乗せて遥か上空まで上手に飛ばしていました。

大会の最後には、三島小全校児童の夢が書かれた全長4mの大凧が登場。ふわりと空中を舞う圧巻の光景に、会場からは自然と歓声が上がりました。



キャンドルの幻想的な光に包まれて ～第25回 黒磯駅前キャンドルナイト～

12月12日、黒磯駅前通りにおいて、恒例の黒磯駅前キャンドルナイトが開催されました。まちなか交流センターくるるがオープンして初めての開催となった今回。くるるのイルミネーションの光と、キャンドルの優しい灯りが会場を幻想的に包み込みました。中心市街地を盛り上げようと始まったイベントも今回で25回目。平成から令和へ、大きく変わりつつある街の中で、多くの来場者がゆっくりとした時間を楽しんでいました。



親子の笑顔があふれる広場へ ～子育てコミュニティ広場 利用者1万人達成～

子育て中の親と子が集う場所として、昨年8月にオープンした子育てコミュニティ広場。利用者1万人達成を記念して、12月24日に記念セレモニーが行われました。1万人目となった前田恵理子さんは、買い物に来た際にこの広場を知り、週に1回ほど利用しているといい、「子どもたちも気に入っているのでこれからも利用したい」と話してくれました。前田さん親子には、那須塩原ブランド認定品や木のおもちゃが贈られました。



まちづくりビジョンの 策定を進めています

県北の玄関口にふさわしい那須塩原駅周辺のまちづくりや整備を推進するための将来像「那須塩原駅周辺まちづくりビジョン」。その策定に向けて開催された第3回、第4回 有識者会議の様子を紹介します。▶問い合わせ 企画政策課 ☎0287(62)9254

那須塩原の自然と歴史。時代の潮流を踏まえたまちづくりを——

リゾートからリトリート*へという時代の流れは踏まなければいけないと考えています。日本はリノベーション(刷新)は得意ですが、クリエイション(創造)が非常に苦手。そこでの最大の敵はストレスです。

那須塩原が持っているのは、那須塩原にしかできないスーパーリアリティ、すなわち自然の濃密なる存在、それと共存してきた歴史です。その土地を知り、逆らわない、

*リトリート：日常生活から離れ、心身を癒すこと。

そして防災にも配慮した営みが、今の農畜産業という形になっています。那須塩原の場合は、固有の自然が有するここならではのスーパーリアリズムをどう大事にするか、それが市民への一番の説得力になるのではないか、という気がしています。

リトリートという時代の流れの中で、政府の特区制度などに名乗りをあげ、ありとあらゆる支援をとる、というのが一番良いやり方だなという気がしています。



東京都市大学環境学部
 特別教授
 わく い しろう
 涌井 史郎氏

会議では大手IT企業や土地開発業者などさまざまな分野の民間企業から、本市の現状と今後の方向性について意見を頂きました。そのいくつかを紹介します。



- ・新幹線が1時間に1本しかない。駅前にも何もないので、時間を有効に使えない。
- ・高原リゾートのイメージはあるものの、高原のエリアと駅前が物理的に離れている。
- ・那須塩原駅は何もなくかなり絶望的。
- ・低炭素化、脱炭素化、脱化石燃料について、地勢的にやりやすい地域であると思う。

- ・インバウンドへの情報発信が重要。
- ・まちづくりのポイントは、人だと思ふ。建物ではない。
- ・特色をいかに出すのか。地元の人意見も大事。
- ・駅を降りた時に山が見えるのは、非常にいい。1時間前にでも早く着きたい、という駅にして欲しい。



有識者会議の様子を動画で配信中

那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議の様子を市公式YouTubeチャンネルで配信しています。会議の様子を詳しく知りたい人は、ぜひご覧ください。

※議事録(要旨)はホームページで公開しています。

